

企業のがん対策における産業看護職の役割

田中美保¹⁾ 藤澤美和子¹⁾ 青木智子¹⁾ 犬飼富由子¹⁾ 野見山哲生²⁾

¹⁾ 長野県産業看護研究会 ²⁾ 信州大学医学部衛生学公衆衛生学教室

キーワード：産業看護職 がん予防 企業 長野県

要旨：長野県内の企業において、産業看護職の在籍の有無により、がんの1次予防から3次予防対策に差異があるか、を明らかにするため、自記式質問票による調査を実施した（回答企業307社、回収率53.9%）。加入健康保険、従業員規模、業種の差を調整したロジスティック回帰分析の結果、産業看護職の在籍企業は、不在企業よりも、1次予防の啓発活動がより行われていた。2次予防では、大腸・子宮・乳房・前立腺のがん検診と肝炎ウイルス検査がより実施され、その結果が把握されていた。3次予防では、相談窓口の設置がされており、企業のがん予防における産業看護職の役割が明らかとなった。

A. 目的

職域におけるがん対策は、労働安全衛生法等による規定はないが、がんを発症する年齢層を多く擁する職域における対策には企業の役割が重要であると考えられる。産業保健に携わる保健師及び看護師（以後、産業看護職とする）が在籍している企業と在籍していない企業で、がんの1次予防から3次予防に差異があるのかを調査・分析し、産業看護職の役割を明確にし、今後企業のがん対策にどう貢献できるかを模索する。

B. 方法

長野県産業看護研究会の会員が所属する企業35社と社団法人長野県経営者協会に加盟する会員企業535社（本社、支店、営業所等を含めた企業単位とする）計570社を対象に、自記式質問票を作成し、人事・労務担当者あてに郵送し、回答はFAXまたは郵便で回収した。調査期間は平成27年2月から3月であった。

調査項目は、加入健康保険の種別、従業員数、業種、産業看護職の在籍の有無、がん対策に関する現状として、がん予防の生活習慣の啓発内容、市町村のがん検診の案内（以上、1次予防）、胃がん検診、大腸がん検診、肺がん検診、子宮がん検診、乳がん検診、前立腺がん検診、肝炎ウイルス抗体検査の実施状況、検診結果の把握状況（以上、2次予防）、がん罹患した従業員の就労支援体制の状況（相談窓口の設置）（以上、3次予防）とした。解析は、産業看護職の在籍の有無と各予防の取り組みとの関連を、 χ^2 二乗検定で調べ、さらに関係があった項目ごとに、加入健康保険の種別（協会けんぽ、それ以外）、従業員規模（200人未満および200人以上）、業種（製造業、それ以外）を調整したロジスティック回帰分析により調べた。

C. 結果

570社に質問票を郵送し、回答が得られたのは307社であった（回収率53.9%）。産業看護職は307社のうち66社（21.5%）に在籍していた。

1. 対象の特性（表1）

産業看護職の在籍の有無は加入健保、従業員数との

有意な関係がみられた。業種による差異は見られなかった。

2. 1-3次予防についての分析結果（表2）

・1次予防

産業看護職の在籍は、がん予防の生活習慣の「熱い状態で飲食物を摂取しない」、「適性体重の維持」、「市町村のがん検診の案内」との間に有意な関連がみられた。

・2次予防

産業看護職の在籍は、

- ① 「大腸がん検診の実施」、「子宮がん検診の実施」、「乳がん検診の実施」、「前立腺がん検診の実施」、「B型肝炎ウイルス検査の実施」、「C型肝炎ウイルス検査の実施」と有意な関連が見られた。「胃がん検診の実施」、「肺がん検診の実施」とは関連はみられなかった。
- ② 「検診結果の把握」「精密検査結果の把握」について、有意な関連がみられた。

・3次予防

産業看護職の在籍と「がんの治療や心身の健康についての相談窓口の設置」との間に有意な関連がみられた。

D. 考察

1次予防では、産業看護職が在籍する企業で、がん予防のための生活習慣について啓発の機会を設け、さらに市町村のがん検診受診を従業員に周知、勧奨されていることが示された。産業看護職ががんの1次予防に一定の役割を果たしていることが示された。職域のがん検診を実施していない場合、産業看護職が従業員に対し市町村のがん検診を周知し、受診勧奨することは、受診率の向上のために重要であると考えられる。

2次予防のがん検診の実施については、産業看護職が在職している企業では、女性特有の子宮・乳がん検診がより実施されていることが示された。これらのがんは、出産や子育てを担う20～30代から増加しているが、早期のステージで発見することが可能であり、そうした世代を擁する職域でのがん検診受診率向上は重要な課題である。産業看護職の啓発により受診率向

上が期待される。胃がん検診は、産業看護職の有無を問わず高い実施率が示されており、すでに職域の健診項目としての定着がうかがえた。肺がんについては、結核予防を目的とした胸部レントゲンが法定健診に含まれており、同一の写真が肺がんの有無について読影することで済ませていることで高い実施率を示したことが考えられる。今後、がん健診の必要性の啓発やどのような形でがん検診を職域検診に組み入れ実施するかについて、企業や健康保険組合に対して提案していくことは産業看護職の役割の一つであると考えられる。

がん検診実施後の「検診結果の把握」、および「精密検査の把握」では、産業看護職の在籍と関係があった。産業看護職が従業員個々のがん検診の受診結果を把握することで、有所見の場合に受診勧奨からがんの早期発見、早期治療、スムーズな現場復帰に至るまで関わることができ、国が目指すがん治療中にも働き続けられる環境の整備へとつなげられるのではないかと考えられる。

3次予防として、産業看護職の在籍はがんに罹患した従業員の心身の状態についての相談窓口の設置と関係があった。産業看護職は、従業員にとって身近な医療職として相談窓口になり、必要に応じ従業員と職場との調整、さらに医療機関との連携、家族への支援もできる立場にあることから、がん治療中にも従業員が働き続けるためのコーディネーターとしての役割が期待される。

E. まとめ

企業における産業看護職の在籍により、がんの1次予防から3次予防に差異が見られた。今後は、より有効ながん予防対策を検討していくとともに、働く世代の健康に寄与できる産業看護職が、より多くの企業で配置されるような体制づくりについても考えていきたい。

F. 利益相反

利益相反なし

参考文献

- 1) 松田 徹：職域におけるがん検診の取り組み、産業衛生学雑誌 53. (2)：44-44. 2011
- 2) 錦戸典子, 佐々木美奈子, 渡井いずみ, 望月麻衣：就労支援の必要性と職場での支援のしくみ、がん看護. 9 (2)：205-209, 2014
- 3) 西本寛, 松田智大, 柴田亜希子, 堀芽久美：全国がん罹患モニタリング集計 2011 年罹患数・率報告. 東京：独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター. 2015；52-53.
- 4) Wada K, Nagata C, Tamakoshi A, et al. Body mass index and breast cancer risk in Japan: a pooled analysis of eight population-based cohort studies. Ann Oncol 2014; 25: 519-524

表 1 対象の特性（産業看護職の在籍との関係）

	全体	看護職不在	看護職在籍	p 値
健康保険区分	307	241	66	
協会けんぽ	133 (43.3%)	125 (51.9%)	8 (12.1%)	
協会けんぽ以外	174 (56.7%)	116 (48.1%)	58 (87.9%)	p<0.01
企業規模 (従業員数)	307	241	66	
199 人以下	162 (52.8%)	145 (60.2%)	17 (25.8%)	
200 人以上	145 (47.2%)	96 (39.8%)	49 (74.2%)	p<0.01
業種	307	241	66	
製造業	132 (43.0%)	106 (44.0%)	26 (39.4%)	
製造業以外	175 (57.0%)	135 (56.0%)	40 (60.6%)	n.s.

表 2 産業看護職の在籍と 1 次予防の各変数との関係

1 次予防	(%)	総数	粗 Odds 比	95% 信頼区間	p 値	調整後 [※] Odds 比	95% 信頼区間	p 値
①啓発の有無								
啓発の有無								
看護職ありなし		306						
不在	78 162 32.5%		1.00			1.00		
在籍	48 18 72.7%		5.54	(3.02-10.15)	p<0.01	4.91	(2.62-9.53)	p<0.01
②生活習慣の啓発								
熱い状態で飲食物を摂らない								
看護職ありなし		203						
不在	10 132 7.0%		1.00					
在籍	12 49 19.7%		3.23	(1.31-7.96)	p<0.01	交絡因子なし		
適正体重の維持								
看護職ありなし		203						
不在	63 79 44.4%		1.00					
在籍	40 21 65.6%		2.39	(1.28-4.46)	p<0.01	交絡因子なし		
③市町村がん検診周知								
看護職ありなし		303						
不在	26 211 11.0%		1.00					
在籍	16 50 24.2%		2.60	(1.30-5.20)	p<0.01	交絡因子なし		

※健康保険区分、従業員規模、業種で調整した

表 3 産業看護職の在籍と 2 次予防の各変数との関係

2 次予防	(%)	総数	粗 Odds 比	95% 信頼区間	p 値	調整後 [※] Odds 比	95% 信頼区間	p 値
①がん検診内容								
胃がん検診								
看護職ありなし		302						
不在	179 58 75.5%		1.00			1.00		
在籍	59 6 90.8%		3.19	(1.31-7.76)	p<0.01	1.94	(0.80-5.46)	n.s.
大腸がん検診								
看護職ありなし		303						
不在	171 66 72.2%		1.00			1.00		
在籍	63 3 95.5%		8.11	(2.46-26.71)	p<0.01	4.75	(1.60-20.38)	p<0.01
肺がん検診								
看護職ありなし		303						
不在	183 55 76.9%		1.00					
在籍	56 9 86.2%		1.87	(0.87-4.02)	n.s.			
子宮がん検診								
看護職ありなし		295						
不在	92 140 39.7%		1.00			1.00		
在籍	44 19 69.8%		3.52	(1.94-6.41)	p<0.01	3.26	(1.76-6.21)	p<0.01
乳がん検診								
看護職ありなし		295						
不在	96 136 41.4%		1.00			1.00		
在籍	45 18 71.4%		3.54	(1.93-6.49)	p<0.01	3.11	(1.67-5.97)	p<0.01
前立腺がん検診								
看護職ありなし		294						
不在	79 151 34.3%		1.00			1.00		
在籍	39 25 60.9%		2.98	(1.68-5.28)	p<0.01	2.27	(1.23-4.26)	p<0.01
B型肝炎ウイルス検査								
看護職ありなし		289						
不在	34 191 15.1%		1.00			1.00		
在籍	31 33 48.4%		5.28	(2.86-9.72)	p<0.01	4.30	(2.21-8.48)	p<0.01
C型肝炎ウイルス検査								
看護職ありなし		289						
不在	40 185 17.8%		1.00			1.00		
在籍	34 30 53.1%		5.24	(2.88-9.53)	p<0.01	3.88	(2.03-7.49)	p<0.01
②検診結果の把握								
検診結果の把握 (全てもしくは一部している)								
看護職ありなし		301						
不在	152 83 64.7%		1.00			1.00		
在籍	61 5 92.4%		6.66	(2.58-17.23)	p<0.01	5.02	(2.07-15.07)	p<0.01
精密検査の把握								
看護職ありなし		210						
不在	67 83 44.7%		1.00			1.00		
在籍	43 17 71.7%		3.13	(1.64-5.99)	p<0.01	2.47	(1.26-4.99)	p<0.01

※健康保険区分、従業員規模、業種で調整した

表 4 産業看護職の在籍と 3 次予防の各変数との関係

3 次予防	(%)	総数	粗 Odds 比	95% 信頼区間	p 値	調整後 [※] Odds 比	95% 信頼区間	p 値
相談窓口								
看護職ありなし		305						
不在	155 84 64.9%		1.00			1.00		
在籍	61 5 92.4%		6.61	(2.56-17.09)	p<0.01	5.28	(2.17-15.80)	p<0.01

※健康保険区分、従業員規模、業種で調整した